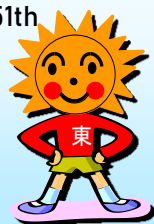


51th



川越市立霞ヶ関東小学校だより

学校教育目標

# たいよう

- 【た】 たくましい子  
 【い】 生き生きと活動する子  
 【よ】 よく考える子  
 【う】 美しい心の子

第10号 令和8年1月30日(金)

## 靴が揃うと、心も揃う

校長 関根 努

立春を迎え、暦の上では春となりますが、寒さの厳しい日が続いています。校庭では冷たい風にも負けず子どもたちが元気に遊び、教室では一年のまとめに向け、落ち着いて学習に取り組んでいます。

さて、今年度は「あいさつ」や「廊下歩行」、「無言清掃」、「登下校の一例歩行」に取り組みました。少しずつではありますが、それぞれができる児童が増えてきました。そこで、三学期は新たに「靴そろえ」に取り組んでみようとし、始業式で話をしました。

昇降口を通ると、きれいにそろえられた靴が並んでいる日もあれば、急いで脱いだままの靴が目につく日もあります。靴そろえは一見すると小さな行動ですが、実は心のあり方や生活の姿勢が表れる大切な場面だと感じています。

はきものをそろえると 心もそろう  
 心がそろうと はきものもそろう  
 ぬぐときにそろえておくと はくときに心がみだれない  
 だれかが みだしておいたら だまってそろえてあげよう  
 そうすればきっと  
 世界中の人の心も そろうでしょう



これは、長野市の円福寺の住職であった藤本幸邦（ふじもとこうほう）さんが作られた詩です。この詩は、靴そろえが単なる決まりごとではなく、自分の心を整える行為であることを教えてくれます。

靴をそろえることは、「次に使う人への思いやり」や「場を整える心」につながります。また、ほんの数秒立ち止まることで、気持ちを切り替え、次の行動に向かう準備にもなります。慌ただしい日常の中だからこそ、こうした小さな行動の積み重ねが、落ち着いた生活態度を育てていきます。

二月は一年のまとめの時期であると同時に、次の学年へと向かう準備の時期でもあります。靴そろえのような日常の所作を大切にすることが、子どもたちの心の成長につながっていくと考えています。ご家庭でも、玄関での靴そろえを通して、お子さんと声を掛け合っていただければ幸いです。

残り少ない今年度の日々を、子どもたち一人一人が気持ちよく過ごし、次の一歩へとつなげられるよう、学校全体で見守ってまいります。今月もご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

